

教務だより

2018年11月号
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

アクティブ・ラーニングでなければダメな理由

茗溪塾塾長 宇野雅春

模試の成績で「一喜一憂」している生徒たちを見ていて、思うことがあります。模試で合格点をとることが「目的」になっているのではないか…ということです。模試は「受験」ではありません。一つの目安にすぎません。むしろ結果を自分の目標達成に向けてどう生かしていくのかが大切なことです。落ち込んでいる生徒の話を開いていると「あんなに頑張ったのに…」「こんな成績でがっかり…」というもの…。

でも、本当に人より頑張ったのなら、成績は取れているはず…よく考えてみれば、「頑張る」という事の内容も、今の実態を反映しているわけですから、良くなかったとすれば、模試の結果から反省の余地がたくさんあるという事なのです。

つまり、模試は自分の弱点をはっきり示しているはずなので、努力の方向や、自分がやってきたことを反省する良いチャンスと考えるべきものです。まるで受験に落ちたかのようにがっかりする意味は全くないと思います。むしろ生徒が志望校を自覚し、本当に行きたいと思うことが大事なことです。悔しいと思っているとすればそれはむしろ良いことに思えてしまいます。

人間は一般に時期が迫ってこないとなかなか気持ちが決まらない傾向があります。ですから、模試の結果で本人が悔しがっているのは大きな前進といえます。入りたい学校があり、どんな努力も惜しまないという状況になっているのなら、チャンスは来ていると考えましょう。この自覚が、今までなんとなく、のらりくらりと「勉強のようなもの」をやってきたことから脱却できるチャンスにつながるはずです。

「思えば叶う！」というのは、上杉鷹山という若干 17 歳で米沢藩藩主となった人の言葉「為せば成る、なさねばならぬ何事も、成らぬは人のなさぬなりけり」と似ている言葉です。

現代語に直せば、「どんなこともでも強い意志をもって行えば必ず実現する、結果が得られないのは成し遂げる意志を持って行動しないからだ」という意味になります。これは武田信玄が言った同じような言葉を上杉鷹山がアレンジしたといわれています。

この感覚が「思えば叶う！」という言葉や「信じれば夢は叶う」という言葉で現在もよく引用されます。上杉鷹山が藩の財政を立て直したことに比べれば「受験」などという事はまだ小さいことのようにも思えます。11 月というこの時期が、やっと受験生が受験を意識し始める時期です。もう遅いとあきらめるのは、どんなものでしょうか？

受験は刻々と近づいてきますが、あせってもよいことはありません。目標が定まったら一步でも近づくように努力を重ねていきましょう。思い悩む時間はもうありません。ただし生活の中で受験勉強にあてられる時間は、どんどん増えてくるはずです。

空回りを避けるために自分の「分かった」を第一にしましょう。少しでも、たとえ一間でも今まで分からなかったことがわかるという事が重要なことになります。

焦っても嘆いても時間の無駄…。やれることを一つでもいいからやっていくこと。「目標がはっきりしている」という事は、迷わず進めるという「メリット」につながります。

時期的にもう遅いとあきらめずに真剣に取り組んでみましょう。その変化は必ず周りにも伝わります。またその姿勢から見る「問題」は全く違って見えてくるはずです。「なんだ、そんなことだったのか！」という発見と理解は、大きく偏差値をアップさせるはずです。

残された時間で区切るなら 12 月の冬期講習前を一つの区切りとして、わかっていなかったことや不得意克服に時間をとりましょう。冬期講習ではもう一度繰り返しのチャンスがあります。正月特訓や茗溪模試も大きな復習とレベルアップのチャンスになります。過去問を解きまくることで実力アップは期待できます。

時間を見つけやれるだけの努力をしましょう。結果は、努力次第！ダメだったとしても、思い切り頑張ったという事が、自信をもたらしてくれることは間違いありません。その結果次の行動方針も決まってくるはずです。